

令和6年度美馬中学校教育についてのアンケート結果について

美馬中学校

今年度、生徒と保護者の皆様を対象に実施した「美馬中学校教育についてのアンケート」の結果をまとめましたのでお知らせします。なお、アンケートの詳しい結果（データグラフ）につきましては、学校ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

【学校生活の充実】

生徒の「学校へ行くのが楽しい」の問いでは前・後期とも、約95%の肯定的な回答があった。保護者の「学校は、子どもにとって楽しみなところである」の問いでは前・後期とも、約90%の肯定的な回答があった。しかし、前・後期を比較すると、生徒の後期で「そう思わない」の割合が1%増加していることについては、手立てを講ずる必要がある。今後も、確かな学力の定着に向けた授業改善、魅力ある学校行事や自己実現に向けたキャリア教育の充実等、中・長期的なビジョンを持って取り組む必要がある。

【確かな学力の育成】

「先生方は教え方にいろいろな工夫をされており、授業がわかりやすい」について、生徒の肯定的な回答が、前期100%に対し、後期は98%と減少した。保護者は前期90%、後期89%であり、「わかる授業」の実践についての取組をさらに進める必要がある。また、「ICTの活用」についても生徒91%、保護者90%の肯定的な回答をいただいた。しかし、昨年度のアンケート結果よりも肯定的な回答が8%ほど減少しており、「一人一台端末」や電子黒板を取り入れた、ICTを活用した授業について今一度見直す必要がある。今年度より取り組んでいる学校力向上コラボレーション事業における授業改善への取組の成果が現れるよう、教職員の授業力向上に継続的に取り組んでいきたい。

【豊かな心の育成】

生徒の「命の尊さや人権の大切さを学ぶ機会がよくある」は97%、保護者の「学校は道徳や人権教育を積極的に行っている」は89%の肯定的な回答があった。特別の教科道徳の時間だけでなく、年4回の朝道徳と、家庭に向けての道徳通信の発行により、家庭内でも話し合う機会としていただけたと考える。しかし、昨年度は後期に保護者から95%の肯定的な回答をいただけたことを考えると、人権教育のさらなる充実を図る必要がある。「生徒のあいさつやきまりを守る等の基本的な生活習慣」については、生徒は90%、保護者は91%の肯定的な回答があった。今後も、家庭と連携して取組を進めていきたい。

【健やかな体】

「健康や体力づくり」については、保護者の肯定的な回答は前期90%から95%に上昇した。部活動や体育の授業での体力づくりや、養護教諭や講師を招いての保健指導、地域おこし協力隊による体づくりに関する取組や食育等、学ぶ機会が多くあったこと、また情報発信を行ったことで、学校の取組への理解が得られたと考えている。

生徒の肯定的な回答も前期93%から後期97%に上昇した。引き続き、機会を捉えて健やかな体づくりを進め、短時間でも効果的で能率的な活動を心がけていきたい。

【進路指導・キャリア教育】

「将来の進路や生き方について考える機会がある」の問いでは、昨年度後期の肯定的な回答の割合は生徒85%、保護者82%であり、今年度重点課題の1つであった。今年度後期は、生徒90%、保護者84%と一定の上昇が見られたが、まだまだキャリア教育等の情報発信が不足していたと考えられる。本年度は5年ぶり職場体験学習を実施し、様々な外部講師のお話を聞く機会や体験的な学習の機会を設けた。今後も、3年間を見通した進路指導やキャリア教育の中・長期的な目標を定めて計画的に推進したい。

【安全教育】

生徒の「事件・事故、地震・火災が起こった時どうしたらよいか学ぶ機会がある」が98%、保護者の「学校は、安全指導に努力している」は94%の肯定的回答があった。今年度は「防災と人権」をテーマに、講演会やHUG研修などに取り組んだことや、小中合同の避難訓練を行ったこと等により、災害時の対応について意識が高まったと考えられる。今後は、認定こども園や地域と連携した「合同防災訓練・引き渡し訓練」等を視野に入れ、計画して実現したい。生徒たちには「自助」とあわせて近くにいる園児・児童や高齢者とともに助け合う「共助」の精神と行動力を育てていきたい。

【様々な教育活動】

「学校行事」に対しては、生徒・保護者ともに97%以上の肯定的な回答であった。学級会や生徒会活動を通して、生徒主体で考え実行することを今後とも継続したい。「部活動に積極的に参加している」の問いでは、91%の生徒が肯定的な回答をしており、部活動が学校生活に占める割合が大きいことがわかる。部活動は現在大きな変革の時期を迎えつつあるが、適正かつ充実した部活動運営に取り組んでいきたい。

生徒会や委員会活動への関わりについては、他の項目よりはやや低いが、前期から後期へと約2%増えている。生徒生活心得見直しなど、生徒会本部役員を中心として、話し合い活動を取り入れて、活発に活動をしてきた成果であるといえる。

【生徒指導】

保護者からは、「学校は、問題が生じた場合、迅速に対応してくれる」「学校は、保護者の意見、相談をきちんと聞いてくれる」はともに90%を超える肯定的な回答をいただいた。生徒からは、「先生は、いじめや悩み事など、私たちが困っていることについてよく対応してくれる」には96%の肯定的な回答があり、「悩みや心配なことを、相談することができる先生がいる」の問いに対しても91%の肯定的な回答があった。しかし、この2つの項目については、常に100%の肯定をめざし、時間をかけて信頼関係を築き、中学生の発達段階を考えながら、生徒がより相談しやすい体制づくりを進めていく必要がある。

また、「生活に関するアンケート」を継続して毎月実施し、学年団、生徒指導主事、管理職員で共有して組織的に対応し、職員会議でも全職員で共有を図っている。今後も、日常的な関わりを大切に、「生活に関するアンケート」や「教育相談」、「前進」等を通して生徒理解に努め、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めたい。また、スマートフォン等の情報端末の利活用については、保護者と連携して情報モラルを身に付け、安全な利活用を進めることが不可欠である。

【環境整備】

生徒・保護者ともに、94%以上の肯定的回答があった。生徒たちの日頃の清掃や、ボランティア部を中心とした花づくりや校内の掲示物の工夫等により、学校の環境美化に努めることができた。今後も小学校と連携して美しい学校環境を構築したい。

【地域・保護者との連携】

「学年便り・ホームページ等の情報提供」では、保護者、生徒ともに96%の肯定的回答があった。また、「PTA活動等家庭と学校との協力関係ができています」では、86%の肯定的回答が得られたが、今後もホームページや「さくら連絡網」を積極的に活用して、情報発信をするとともに、保護者とのさらなる連携に努めていきたい。

【特別な配慮を必要とする生徒への取組】

生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、支援を必要とする生徒が将来的に自立し、社会参加を図ることができるよう合理的配慮を心がけ、生徒たちへの個に応じた支援を行った。言語支援の必要な生徒や保護者への対応も学校として取組を進めてきたが、より計画的で組織的な対応が必要であると考えている。来年度も、特別支援教育の充実および言語支援の充実に向けて、環境整備や支援体制をより一層整えるとともに、教職員への研修も積極的に行っていきたい。

～ 今後の取組について ～

今年度のアンケート結果を踏まえて改善を図り、一人一人の生徒たちの生きる力を育成するため、全教職員が保護者の皆様や地域の皆様と力を合わせてより充実した教育活動の実践に努めてまいりますので、今後ともご理解、ご協力をよろしく申し上げます。

また、学校業務に適切に取り組むためにも、引き続き学校の業務改善や働き方改革の推進にご理解をいただき、ご協力をいただけますよう、重ねてお願いいたします。